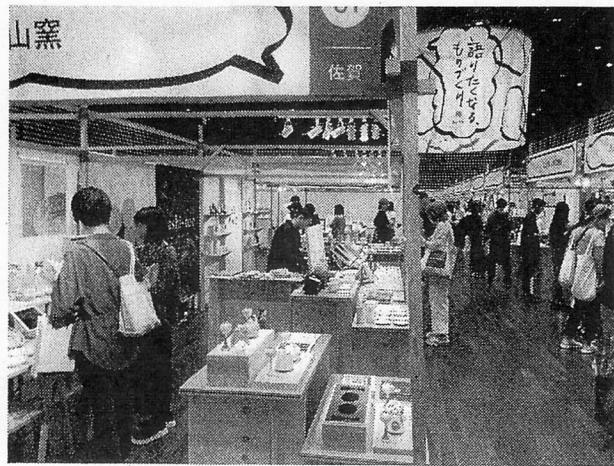


テーブルウェア新規ブランドも参加

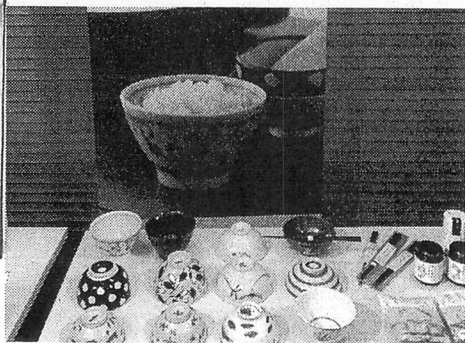
大日本市

「語りたくなる、ものづくり」を掲げる合同展示会「大日本市」(主催・株式会社EBISSO3)で75ブランドを集め開催した。



会場の様子、手前は有田・浜山窯

中川政七商店は9月6日、東京・恵比寿の初出展の注目は、プロダクトデザイナー清水久和氏が代表を務める「S&O DESIGN」。清水氏は「SETOMANEKI」(株中外陶園)を手掛けるほか、カレー皿「機内食の皿」(株中善、zen to)、(株)西海陶器製のソーパディッシュやテニスボールを模した蓋付き小物入れ、燕三条製のアイスクリームスプーンなど、日本各地で作られる商品を披露した。同じく初の「S&O DESIGN」は、非鉄金属商社のアルコニック・三高(株)のブランド。



中川政七商店の「好日茶碗」

スタッキングするとストライプが現れるという、新しい見せ方を提案する飯茶碗「YOHAKU」8色を大きく展開。瀬戸・竹堂園製で、半磁器の胴部に鎬、2色のマット釉を掛け分けた手の込んだもの。さらに日本の生産技術と北欧のデザインのコラボや、ネットショップ「KOZLIFE」も

運営するデザイン会社「kura comm on」は、美濃の地名から名付けた食器「ENABIANABI」を同市初披露した。中川政七商店は12種類の飯茶碗「好日茶碗」を新規投入。多様な絵付けが特徴の新しいシリーズで3000〜6000円代の価格帯、有田・浜山窯による手書き染付け、美濃・山功高木製陶の鉄絵や呉須のほか、益子焼、九谷焼をラインアップした。「SETOMANEKI」は待望の左手で招くタイプを発表し、左右ペアでギフト市場を狙う。(株)山口陶器「かもしか道具店」は、白黒2色の「からあげプレート」や、「陶の焼耐カップ」などの新作を発表した。デザイン会社が(株)丸朝製陶所と組んで展開する美濃焼「きほんのつづわ」からは、リサイクル陶土を使用したカップを披露した。直径20センチの「切立プレート」4色を新たに加えた。

このほかポリプロピレン樹脂にセルロースファイバーを55%混練することで主成分表記が「紙」となる素材を使った食器とカトラリーを展開する「Nogake」は、美濃市のプラスチック射出成形メーカーが手掛け、プレート1760円、カトラリーセット550円と価格も魅力的な商品も登場した。鍋島虎仙窯、浜山窯、漆琳堂、簗蔵まつかん、家事問屋ら、なじみの生活雑貨ブランドも多数出展。来場者は2042人となった。